

# 山陰海岸ジオパークマネジメントプランの基礎調査と課題の整理

## Issues Surrounding the Administration and Management of San'in Kaigan Geopark

選択テーマ (Theme) : エリアマネジメント (Area Management)

中橋 文夫 (鳥取環境大学)

NAKHASHI Fumio (Tottori University of Environmental Studies)

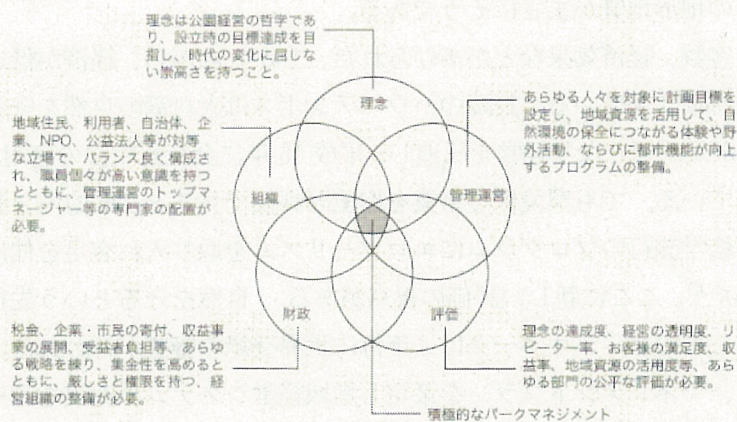
キーワード (Keywords) : ジオパーク (Geopark)、パークマネジメント (Park Management)、  
理念 (Philosophy)、組織 (Organization)、管理運営 (Management and administration)  
連絡先 (address) : nak-fumi@kankyo-u. ac. jp

**abstract:** Only 4% of the San'in Kaigan Geopark area is designated as San'in Kaigan National Park, while the remaining 96% is considered to lie within the jurisdiction of cities, towns, or villages. Protective and maintenance policies for the geopark are insufficient. Hence, this study aims to investigate the geopark's present situation and requirements from the viewpoint of park management. (1) As a preliminary to this research, I provide a general description of San'in Kaigan Geopark, and survey and analyze pioneering research papers to gain an overall understanding of the geopark's current situation. (2) In a review of the literature, I analyze the project research and reports of this university and categorize the plans. (3) I conduct field observations, face-to-face interviews, surveys at Shimabara, Toya-Lake, and Itoigawa Geopark, as well as summarize the needs, problems, and issues involved in the management of the geopark. (4) By organizing my observations and summarizing the current issues on the park management, I provide a clear picture of the philosophy, organization, and management and administration of geoparks.

### 1. 研究の背景と目的

山陰海岸ジオパークは、鳥取県・兵庫県・京都府にまたがり立地し、東京都に等しい 2185.9km<sup>2</sup> の広面積を持つことから、規制誘導策も行き届かず事業執行力に欠ける。そこでエリア全域を捉えたマネジメントプランが必要と判断し、本研究に着手した。目的はジオパーク内の資源が適正で効率的に機能するために、地域経営を構成する「理念・組織・財源・管理運営・評価」の視点、あり方を明らかにし、山陰海岸ジオパークマネジメントプランの策定にある。ポスター発表ではその基礎調査と課題を整理し、本稿では概要を示す。

### 2. マネジメントプランとは何か



マネジメントプランのフレーム<sup>(1)</sup>

Management は管理と訳され、国語辞書には「仕事を進める上で気を配り、必要な手段を(組織的に)使ってとりさばくこと」とある。山陰海岸ジオパークのマネジメントプランはこのような意味に加えて、視点の方針を図に示す。

### 3. 課題の整理

**理念**は、事業の企画段階で重要な意味を持つ。ヒアリング調査で知り得た島原半島ジオパークと洞爺湖有珠山ジオパークの理念は「火山との共生」であった。これは「自然災害という負の遺産」を逆手に取ったようなもので地域住民のたくましさを感じた。「一瞬の不幸よりも100年の幸せ」を選んだのである。その点、糸魚川の長年の歴史を誇るヒスイを主とした鉱石産業が地域経済を支えジオパークを形成し、しかも観光地でないところがよい。特に理念らしいものは用意されていないが、命名するとすれば、「糸魚川の地質遺産を地場産業に活かした大地のモデル公園」が考えられる。

**組織**は、「ジオパークエリア内に立地する、それぞれの組織内で競争原理が働いているのか?」ということであるが、アンケート調査で「信賞必罰は望まず」という声があり残念であった。また、ジオパークと言っても、学識者から「組織としての位置づけが明確ではない」という指摘があった。すなわちプランは「絵に描いた餅」に過ぎないのである。このような広域にわたる地域指定においては法的裏づけがあつてこそ、効果が発せられるのであつて好例が自然公園である。組織の構築でもっとも留意すべきことは「情報公開」だ。参加する人々が対等な権利を持ち、公平な立場で公明な運営を求めている。

**財源**は、道県市町それぞれの組織のなかで確保されているのが現実である。しかし今日の財政悪化の状況から、今後、補助金が断ち切られるところもあつた。課題は収益事業を考えるべきである。着目点はツーリズムだ。従来の消費型ではなく、体験観光型に可能性を見る。鳥取県岩美町は千曳網などが楽しめるオンサイトツーリズムを実践し夏の名物として親しまれている。現地に入り宿泊し、収穫・育成・学習などの体験実践がプログラムになる。未だ眠れる資源を掘り起こし、教育、産業、観光事業の誘発が望まれる。

**管理運営**は、環境教育・レクリエーション・スポーツ・芸術・酪農などのプログラムを言う。国営飛鳥歴史公園(奈良県明日香村)では、石舞台地区をはじめとした景観整備が行われ、万葉集とふれあえるプログラムも用意されている。興味深いのが山岳信仰である。鳥取では摩尼寺、奥の院遺跡がジオパーク内にあり、そこには巨石の榭が掘り込まれ神殿が配されている。そこはかつて、修行の場であつたと言う。このような文化的景観を活用することにより、新たな管理運営プログラムをつくるのだ。その場合、棚田・溪谷・植生が有力である。日本人は巨木や崖などに神が住むと信じてきた。日本庭園に磐境、あるいは磐座という岩組みがある。ジオパークの地形地質がまさにそうである。

**評価**の視点は従来、客数、経済効果などがあげられた。しかしながら、経済が低迷する今日、もはやそのような視点は見直しの時期に来ている。長崎のハウステンボスは、大村湾の自然を守るために487億円を投じた。残念なことにそれが足かせとなり経営を圧迫し、平成15年に会社更生法の適用となり、その後、野村證券が支援し今日に至っている。でも環境保護事業を環境財評価で見ると225億円と弾かれた。ハウステンボスはそれを活用して、修学旅行のプログラムにエコツーリズムを取り入れ客足を伸ばし、広告宣伝費効果額として1億8千万を得た<sup>①</sup>。ここに新しい評価の視点がある。自然を守るという先行投資が環境財評価という新たな価値観を見出したのだ。ジオパークは4年毎に世界登録の審査が行われる。再登録を目指すならば指摘した課題を踏まえ、マネジメントプランを策定し地域経営システムの充実を図っていかなければならない。

参考文献 中橋 文夫(2005)「公園緑地のマネジメント p10」学芸出版<sup>①</sup>

中橋 文夫(2005)「公園緑地の積極的なマネジメント p57」関西学院大学博士論文<sup>②</sup>